



平安伸銅工業株式会社 収納用品やDIY商品などの企画・販売

一人ひとりがD&Iの体現者。 「私らしさ」を実現する平安伸銅工業。

※本記事では、同社内で使用の名称に合わせて「社員」ではなく「メンバー」と表記しております。

「違いを強み」に

「突っ張り棒」や「突っ張り棚」などの収納用品の企画・販売を主力に、「私らしい暮らし」の実現のため、新たな商品・ブランドを提案し続ける平安伸銅工業は、今年で創業約70年を迎える。

同社3代目代表 竹内香予子氏が、2015年の就任時から事業における「一人ひとりの違いの大切さ」の必要性を発信してきたこともあり、多様なメンバーが集まるようになったという。実際に8年前と比べ、女性社員比率は30%から54%に増加。採用形態の幅も広がった。

同社は、大切にしている9つの「ヘイアンバリュー」の一つとして、「『違い』を大切にしよう」を掲げる。それぞれの違いを強みに活かしあうことで創造的なアイデアが生まれるという考えのもと、異なる価値観への理解とリスペクトを通じて、「私らしさ」を発揮できるカルチャーをつくっている。それは商品開発にも通じており、個人のライフスタイルや事情によって、思いもよらない多様な商品の使い方が生まれることを念頭におく。アイデアと技術で一人ひとりのお客様の「私らしい暮らし」を後押しする。

創意工夫でバリューを定着、 ボトムアップでもD&Iを推進

バリューやビジョンを社内に浸透させるための社内広報もユニークだ。プロモーションビデオを作成したり、ラジオでメンバーの「私らしい暮らし」を発信したり、社会福祉法人みつわ会（大阪府寝屋川市で精神障害のある方の地域生活を支援）に依頼して「バリュークッキー」を製作し、食べながらバリューについて学ぶ機会を設けたりなど、取材にお答えいただいた小島括俊氏が所属するカルチャーグループの創意工夫が光る。そうした風土作りの努力の甲斐もあり、経営者やカルチャーグループからの発信だけでなく、メンバー一人ひとりにD&Iが当たり前を受け入れられる環境が整備されていった。

そのような環境があるから、ボトムアップでもD&Iが進んでいく。ムスリムのメンバーのために他のメンバーが自主的にお祈り部屋を作ったことも。それだけでなく、ひとりの「モヤモヤ」をきっかけに、有志チームを組んで意見を

し合うことで、これまでに就業規則やドレスコードの改訂、同性カップルも利用できる会社独自の婚姻届の作成なども実現してきた。入社2年目のメンバーが主導することもあり、誰でも意見を言いやすいフラットな組織であることが窺える。



対話で着実に、そして確実に「私らしさ」は花開く

D&Iに取り組む上で、同社が特に意識していることがある。「ダイバーシティ」といっても解釈や認知は人によって異なるということだ。だからこそ、画一的なやり方で進めるのではなく、対話で一人ひとりと向き合い解決していく姿勢を大切にしている。ムスリムのメンバーが入社した際には、イスラム文化に関する本を読み、基本的な知識を身に付けた後、どのような配慮が必要かを対話を通じて考え、しきみを整えていったそう。そうすることで見えやすい属性だけではなく、特性やパーソナリティなどの見えにくい多様性にも注意を向けることができる。意識しなければ組織は均一化してしまう。あらゆる違いをぶつけ合わせ化学反応を起こすことで、組織として大きく強くはなっている。

「私らしい暮らし」を社会に届けるため、これからも「違いを強みに」を土台に、会社全体の多様性のレベルをより一層上げていきたいという。さらに、トップやマネージャーが自分の苦手や弱みを開示しやすい環境づくりに注力していく。



授賞理由

「ヘイアンバリュー」は、シンプルで日本語非ネイティブの人にも分かりやすい。バリュークッキーやPVの作成、多文化・宗教に関する輪読会など、「違いを大切にしよう」バリュー定着のためのユニークな工夫である。一人ひとりに向き合っている点も評価のポイントだ。また、大阪府のSDGsプロジェクトで学生向けにジェンダー平等などについて話すなど、対外的にも発信する。多くの中小企業が参考にしやすく、まさにロールモデルだ。